夢中 熱中 青春ライフ！ クローズアップ ⑤

大館手話研究会

手ぶりや身ぶりで、口や耳が不自由な人たちと話す〝手話〟。今回は、この手話を学び、ろうあ者の皆さんの口となり、耳になろうとがんばっている大館手話研究会をご紹介します。会長の菅野政利さんからお話を伺いました。

覚えるほどに新たな壁が

話しますね。

大館で手話講習会が開かれ始めたのは、昭和五十年ごろということです。五日市先生、現在鳳鳴高校にいらっしゃいますが、先生が以前に秋田のろう学校にいて、その時に手話に接して大館へ来られ、夏休みなどを利用して、市内のろうあ者に呼びかけて講習会を開催してくれていたということです。研究会は、それから間もなく、五十一年ごろ発足しました。（以上手話通訳です）

現在の会員は十五人。ほとんどが会社員や主婦の人たちです。手話は最初に単語を覚えるのも大変ですけど、意思疎通という面ではその後も新たな壁が次々とでてきます。「言葉はわかるけど意味がわからない」と言われたこともありますよ。

単語を組み合わせ、物の特徴を表現する手話

ひとりでも多く通訳者を

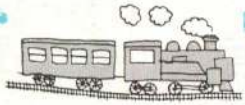
はじめは特に手話をやろうと考えてたわけではなかったんです。でも今は手話通訳ができる人を一人でも増やしたいと思っています。元年から厚生大臣認定の手話通訳士試験が始まりましたが、県内に合格者は現在二人だけなんです。大館からも通訳士を誕生させること、そして〝自分も〟が今の目標なんです。

会ではろうあ者のみんなと竹の子採りや登山などもやってます。日ごろのふれあいを大切にして、楽しく交流していきたいということもまた、みんなに共通した思いなんです。

毎週水曜日の例会で。右端が菅野さん

前略 大館市民になりました ⑥

五所川原発 ➡ 大館着



☆今回は愛宕町の松田康人さんご一家です。

Q・ご家族は何人ですか？

私と妻と子供三人の五人です。長女は東中の二年生、二女と長男は桂城小学校の六年と三年です。

Q・どちらから転入されましたか？

今年の三月三十一日に青森県の五所川原市からです。仕事であちこちに行ってるんですが、出身は私が釧路で妻は富良野、二人とも北海道なんです。

Q・大館の第一印象はいかがでしたか？

駅前が少し寂しい気がしました。北海道だとたいていは繁華街ですから。全体的にはちょっと黒っぽいかなという感じがしましたね。町なかの白鳥には驚きました。

Q・言葉や食べ物などでとまどいはありませんか？

前に米沢にもいたものですから、子供たちは山形、青森、秋田と三県の言葉が混じってしまって大変みたいでした。食べ物は特にありません。大館の食べ物としてイメージにあったのはきりたんぽと比内鶏だったんですけど、大館ではまだきりたんぽを食べてないんですよ。

Q・大館にどんなことを望みますか？

大学が早くできるといいですね。人を集めること、若い人を残すことが大事だと思います。ジャスコ周辺なんかは夜の人通りがないようですから、街灯つけるとかしてもっと人を集めたら活気もでるんじゃないでしょうか。レジャー施設というか、子供や若い人が遊ぶ場所もあればいいですね。

康人さんと友子さん、左から長女の美香さん、長男 淳一くん、二女 洋子さんです